

第 42 年度（2026 年度）ソフトウェア品質管理研究会 分科会紹介

「AI と UX」

AI が仕事や日常生活の中で普通に使われるようになってきました。便利で効率アップを感じる反面、AI を扱う人間側がしっかり考えて利用し、本来やるべき・考えるべきことに頭を使う必要性を感じます。

演習コース III（UX）では、UX を『製品やサービスを利用した際の「体験」を重視する設計思想で、利用者の目的や意向に沿って心地よく効率よく使えるように調査・設計・評価・開発を行うベースとなるもの』と定義し、企画品質や利用時品質を作り込むことで「誰かにとっての価値」を高めるべく、考え方やノウハウを演習形式で身につけます。

毎年、研究員の興味・関心に合わせてテーマや進め方を変えています。41SQiP では、「[全国校則一覧サイト](#)」と「お買い物アプリ」を題材にして、2 チームにわかれて UX 改善の活動を進めました。「全国校則一覧サイト」の改善案の作成においては、生成 AI を活用したプロトタイプ作成がスピーディーに行われ、イメージした改善案をすぐに使える状態にすることで、使いやすさ・わかりやすさの改善も繰り返し進めることができました。数年前であれば、紙に手書きで用意した UI（画面案）を紙芝居形式で切り替えていましたが、もう既に動く物が出来上がっているかと錯覚するような出来栄えのものがサクッと出来上がり、変更も少し AI への指示を加えるだけで済みます。ソフトウェア開発も AI 活用により効率化し、超上流から動く物を使って必要な物を検討することができるようになったと感じました。

42SQiP では以下の演習を中心に必要に応じて座学と演習を組み込んで行く予定です。

- [利用者視点欠乏症の自己診断](#) ※利用者視点が欠乏している症状に気づく
- [UX5 階層分析](#) ※利用者視点で UX 構成要素を分析してあるべき姿に改善する
- [HCD 導入パターン](#) ※組織内に UX の取組みを浸透させる

1 年間、UX を共に学び・実践したい人集まれ！ UX 初学者でも大丈夫です！

本コースは企業内 UX 実践者を育成すべく UX 専門家の私金山が主査を務め、副主査に先端技術を武器に企業内業務システムなどの UX 向上を指導している村上氏、アドバイザーとして Web サイトを中心に顧客の問題解決に UX 手法を有効に駆使している三井氏を迎え、ビジネスや開発現場を知る陣営で指導に臨んでいます。

演習コース III 主査 金山 豊浩

■演習コース III「UX (User Experience)」

主 査：金山 豊浩 氏（メンバーズ）

副主査：村上 和治 氏（SHIFT）

アドバイザー：三井 英樹 氏（Weblysts.com）